

第365回放送番組審議会

1 日 時 2016年5月17日(火)14時～15時30分

2 場 所 tvk 第1会議室

3 委員総数 8名 出席者5名 欠席者3名 二宮務委員、五大路子委員、吉川知恵子委員

出席委員; 山田一廣委員長、布施勉副委員長、白石俊雄委員、林義亮委員、伊藤有壱委員
tvk;中村社長、押川取締役、熊谷コンテンツ局長、松元プロデューサー、玉村編成部長

4 議 題 (1)放送番組

資料:①5月のタイムテーブル

②5月～6月の特番一覧表

(2)視聴合評

オートバイ番組「Ride & Life」

2016年5月7日(土)午後10時30分～11時00分

(3)その他 報告事項

・視聴者対応

報告期間:2016年4月15日(金)～2016年5月13日(金)

・第364回(4月)放送番組審議会の議事報告

(「猫のひたいほどワイド」2016年5月2日放送VTR)

5 議事内容 2ページ以降に記載

6 審議期間の答申または改善意見に対してとった措置及びその年月日

7 審議機関の答申または意見の概要を公表した内容・方法及び年月日

(1) 2016年6月7日(火)「猫のひたいほどワイド」(12:00～13:30)の

「放送番組審議会からのお知らせ」コーナーで審議内容を司会者が報告

(2) 審議概要を当社インターネットホームページに掲載

玉村編成部長 それでは定刻前ではございますが、本日は二宮先生、吉川先生、五大先生よりお休みということでご連絡をいただいております。ご出席予定の先生の皆様が揃われましたので、山田先生お願いします。

山田委員長 それでは、始めさせていただきます。熊本地震から一ヶ月が経過しまして、いろいろ新たなことがわかってきました。断層の上に建った家屋は、たとえ耐震をしても本当に無残に崩壊してしまう。そんな矢先、昨日も茨城で震度5弱、横浜でも震度4を記録しております、地震は私たちの生活の中で決して切り離せられないという事態になってきて、非常に不安ですね。昨日も久しぶりに緊急地震速報を聞きましたけれども、本当に嫌な音ですね。酔いも醒めちゃいますし、眠気も醒めちゃいます。そんなことで、これから不安な気持ちになります。一方で、明るいニュースがあります。番組審議委員のメンバーでもあります白石さんが、この春叙勲をされました。長年にわたる労働行政の功績ということで、大変すばらしいことだなと思います。白石さんには、後ほどちょっとご挨拶いただければと思います。それでは第365回番組審議委員会を始めさせていただきます。中村社長の方からお願いいたします。

中村社長 はい。どうも今日はお忙しいところをありがとうございます。白石先生、本当におめでとうございます。私も委員長がおっしゃったと同じようなことを申し上げるのですが、昨日9時20何分ですけれども、実は僕らは社内の者と4人で飲んでいまして、その店で一斉に、これがほとんどすべての人のところで鳴って、そしてちょっと揺れが来たということですが。本当に熊本に思いを馳せると、ちょうど昨日一緒に飲んでいた方が、実家が大分の別府だそうで、「ちょうどあのときに、あっちに帰っていたんだよ」と話していた矢先にこれになったものですから。本当に大分や熊本の方々もそうですが、これを一日に何回も何

回も聞いているのかなと思うと、本当に胸が痛くなる、そんな気持ちがありました。委員長もおっしゃったように、いつどこであってもおかしくないんだよなということを、改めてと言うか、たった一か月後に思っているんじゃないと思うんですが、我々もそこら辺の備えをやり始めているところですが、ちょっと急がなければいけないかなと思っております。本日もよろしくご審議のほど、お願いいたします。

山田委員長

ありがとうございました。それでは本日の議題に沿って進めたいと思います。まず放送番組について。お手元の5月のタイムテーブル、5月6月の特番一覧表を参照していただきながら、事務局の方からお願いいたします。

玉村編成部長

では、お手元の5月の番組表と、特別番組一覧表5月と6月をご覧くださいませでしょうか。5月の番組表ですけれども、新しく始めました番組を両面にご案内しています。「猫のひたいほどワイド」、「サタミンエイト」。こちらの番組を、それぞれ表紙にしています。こちらですね、来週になりますが、「秋じゃないけど収穫祭」のご案内です。それから既に終わりましたけれども、「ザよこはまパレード」の中継、もう一つ「Ride & Life」、新しい番組のご案内です。中面は4月からの続きなので特に変わりはありませんが、中面右の下の方をご覧ください。「川崎競馬中継」というのがございます。今年初めての試みでございますけれども、サブチャンネル、いわゆるマルチチャンネルと言いますか、私共で行きますと031の次に032というチャンネルを、新たにこの時間だけ発生させて、競馬中継を行います。それを5月24日から29回に渡りまして、今年度トライすることになりました。そちらのご案内が載っております。次の面はレギュラー番組のご案内と、イベント、それから関連しますDVDの発売、映画の公開のご案内です。以上がタイムテーブルです。5月6月の特番一番表では、先ほどお話いたしました「ザよこはまパレード」、それから例年やってお

ります、静岡で行われる「焼津みなとマラソン」。その後がベ이스ターズ対中日、阪神、そういった試合。6月に参りまして、交流戦の中継は、千葉ロッテ、日本ハム、楽天。こういったところの中継を行います。それから6月11日は「横浜市会ダイジェスト」。6月20日21日は「神奈川県議会中継」のダイジェスト。そういった予定がございます。以上です。

山田委員長

はい、ありがとうございました。事務局から放送番組について説明がありましたが、これについて何かご意見ご質問等ございましたら。今、ベ이스ターズが徐々に調子を上げてきて。この間も負ける試合、阪神と引き分けていますのでね。これでちょっと最近関心を持って聴いているものがありまして。往年の名選手が解説に出ていますね。遠藤一彦、齋藤明雄、それからこの間は久しぶりに、5月12日の対中日戦ですか、松原誠さんが出ていまして、非常に語彙も豊富だし、滑舌もいいし、非常に上手な解説をしていました。それから野村弘樹さん。ドラフト3位の。彼も非常に緻密な解説をしていて、非常にいいなという感じがしました。これでベ이스ターズが調子に乗ってくれると本当にいいんですけれども。他にございませんか。よろしいですか。ないようでしたら、2番目の視聴合評の方に移りたいと思います。

玉村編成部長

本日は、4月に始まりました「Ride & Life」というオートバイの番組の視聴合評をお願いいたしました。本日はコンテンツ局長の熊谷と番組プロデューサーの松元が出席させていただいておりますので、忌憚のないご意見をいただけますよう、お願いいたします。

視 聴 合 評

山田委員長

ありがとうございました。それでは、委員の皆さんからご意見を頂戴する前に番組を制作された松元さんの方から、お話しをいただければと思います。

松元プロデューサー

こんにちは。制作一部の松元です。「Ride & Life」は、オートバイを軸としたカ

ルチャーの番組で、音楽であるとかファッションであるとか、そういったものをオートバイから発生したものをご紹介しながら、「オートバイが暮らしの中にあると楽しいよ」とか、「豊かになれるよ」といったものを、ゲストを招いて紹介する番組です。目的としては、日本で一番オートバイというのは、車とかを抜いて、日本のオートバイが世界で一番という中であって、なかなか日本では乗る人たちが減少していると。そういった中で、普通のオートバイ・ライフを楽しんでもらえるような人々が増えたらいいなというところで、この番組をスタートしました。主にターゲットとしては、30代から50代ぐらいの方々に見ていただいて、オートバイ・ライフ、人生の中に一つあると、いろいろなつながりが増えたりとか、「楽しくなるよ」というものを狙って作っています。よろしくお願いします。

山田委員長 はい、ありがとうございます。委員の皆さんから質問や注文が出るかと思いますが、それは最後にまとめてよろしくお願いします。それではトップバッター、林さんからお願いします。

林委員 ここにたまたま載っていますね「オートバイが持つ魅力を中心に、云々」とありますが、これはオートバイが好きな方には堪えられない番組だとは思いますが、ただ、オートバイにはさほど興味がない方は、視聴者として対象としていないと、受け止めていいのかな。違うの。あ、そう、逆なの。

松元プロデューサー はい。オートバイを、多少興味があるけれども、今までちょっと遠かった方とか。オートバイに乗りたい人は、オートバイのスペックと言いますか、性能とか、走ってどうだとかという、俗に言うインプレッションというものを求めがちなんです。それは逆にやめて、オートバイから生まれた映画や音楽、ファッションなどを紹介しつつといったところですよ。

林委員 わかりました。僕らはオートバイの映画「イージーライダー」の世代なんだけ

ど、ああいったちょっと変わったオートバイというよりも通常の、ナナハンだとかオートバイを扱うものとは思いますが、しゃれてはいますよね。冒頭のイントロダクションのところは、デビット・フィンチャーの「セブン」っていう映画があるんですが、あれをちょっと思い出して。どういう方をお願いして作ったのか、最後に出ましたけど、存じ上げないんですが、しゃれた感覚でやられているなと思いました。ただ、英語のナレーションというのは、どういう意味なのか。オートバイだから英語にするのは、確かにおしゃれ感覚なのかなという気はしないでもないですが、日本語でもいいのかなという気がしないでもなかったですね。途中で、ハーレー・ダビッドソンのファンの方が出てみましたが、あの方は話し声が非常に聞きづらい感じがしたんです。敢えてそういう録音の仕方を狙ったのかもしれませんが、こういう番組だからしゃれた感覚でいこうと、そういったことがあったのかもしれませんが、「何をおっしゃっているのかな」という感じがしました。それから前田さんは『LEON』の編集長ですから、『LEON』の編集長らしいでたちと、オートバイのキャリアと、なかなかしゃれた感覚でしたけれども。お話になったことは、我々新聞の編集と雑誌の編集は根本的には違うけれども、お話になったことは、さほど想定外のことでなくて、「えっ」ということはお話じゃなかったですね。そういう意味では、雑誌も新聞も編集にかかる姿勢は同じなのかな、という気持ちもしましたけど。ただ私は、さすがにああいう格好はちょっとできないなと。私より10歳ぐらい下、もうちょっとしたかな。今50歳ぐらいなのかな。

松元プロデューサー 今48歳です。

林委員 一回りぐらい下ですけど。なかなかあれで社に見えていたんでしょう、おっしゃっていましたね。出版社のあれは知らないですけど、なかなか素敵な中年ではありますよね。ただ、おっしゃっていたことは、さほど「うーん」って感じ

はしなかったかなと。私も考えているようなことを言ったということで。もう一つは、「ライフスタイルの提供」ということが、この番組のコンセプトになっていきますけど、前田さんはピンと来ましたが、これを何回続けてやっていくのかわからないですけど、12回シリーズや18回シリーズになったら、どんな人をゲストに迎えるのかが、非常に難しいんじゃないかと。パターン化するんじゃないかという懸念があって、何かユニークなおっしゃって下さる方でしたら、もちろん奇をてらう必要はないんですが、ライフスタイルというからには、独自の信念を持った方でしょうから。そこはこれから5回10回続けていくに従って、どういうゲストをお招きになるのかで難しくなってくるのかなと。それについての、何か考えがあれば教えていただきたいなど。それから、シンガーソングライターのこの方を存じ上げなかったんですが、どういう経緯でこの方をお選びになったのかを知りたいです。オートバイがお好きであることはわかりましたけれども。以上です。

山田委員長

ありがとうございました。続きまして伊藤さん、お願いします。

伊藤委員

見ていて、番組の趣旨が明快な30分だと思いました。印象はとても良かったです。始まって、まだこなれていない印象はありましたが、これがこなれていくことで、どうなっていくか。大体ご説明にあった通りに、大人の30代から45歳ぐらいまでがターゲットかなと思っていたりしたんですが、ほぼそれにはまっていましたし、そういった方たちに的確にはまってくれば、逆にすべて、例えば女性だとかなんだとかというところに、変に平均的に目標を設定しなくてもいいという。これは今、テレビ番組全般に言えることなんですが、それを一つの成功として、非常に潔い番組だと思っています。僕も森本さんのことを軽く調べて、広島の方なので、なぜ神奈川県に来たのか。バイク好きという一言を超えて、彼を起用した理由を教えてください。そして、やはりこなれて

いないと、失礼ながら申し上げたいいくつかのところで、冒頭で非常に意味ありげに佐藤麗美さんという女性が出てきて。前半かなりたっぷりオープニングを取って走るんですが、「誰？」という感じで、それほどすごい美人でもないし。一般の方だよ、ということがその流れの中でわかるということでもなかったし。もっとも実はこの人には、「ライダーなのにこんな側面が」というところに行くわけでもなく。絞っていけば明快になってくる。せっかくの、気持ちのいい道を走るライダーの主観的な映像に関して言うと、バイクのタンクばかり見えて、もう少しワイドレンジで画角をちょっと上に上げてくれた方が、ライダーそのものの目線で景色を見ている、その快感がはっきり出るんじゃないかなと思いました。後は今回に関しては、やはり前田さんという雑誌の編集長の方が、非常に話が上手なので、多分ターゲットのことも考えながら、あまりマニアック過ぎないところで、上手に話題を全部作って、森本さんはどちらかという「すげえな」と言っているだけで、それでバランスが取れてしまって。そうじゃないゲストの時にどうなるかという、その幅は、毎回前田さんと、逆に3回で飽きちゃうので、どんな幅というか、乱れ幅を見せてくれるのかというのが興味津々です。最後に、佐藤麗美さんらしい声が奥ナレーションで、何かあったんですね。何でこの人の声がナレーションで。たとえば、若い中年男性からミドルに入る人たちが、気持ちよく週末の夜を酔うという意味で言うと、もう少し分かりやすい美女が出てもいいのかなと。そんな男性のためのエンタテインメントがあるのかなという気がいたしました。以上です。

山田委員長

はい、ありがとうございます。フェミニストの伊藤さんとしては、意外な。では次に白石さんお願いします。

白石委員

私は佐藤さんのは、良かったなと思います。目線もきれいだし、カメラもぶれないし、画面もきれいだし。そういう面ではコーナリングもなかなか、自分が乗

っているような感じでよかったなど。伊藤さんのように、きれいかどうかはわかりませんが、佐藤さんの声は聴きたいなど思ったところでございます。私はこの番組は初めて見ましたが、実は10代の時にオートバイに乗りたくて、それでナナハンを持っている人が先輩にいまして、後ろに乗っていただいて伊豆の方まで行ったりして。是非オートバイがほしいと。その先輩が事故って亡くなったんですね。ですから私より4つぐらい上の人で。お子さんが後ろに乗って、一人っ子だったんですが、道の下りで降りたときにブレーキをやったら後ろからドーンとひかれて、事故が二つ重なって。オートバイは無理かなと、諦めました。従いまして、私はあまりオートバイを見ないようにしていましたが、こういう番組を見ると、若い人は憧れるんだらうなと思います。カッコいいです。たまたま茂木のテストコースで、オートバイの試乗車をやりましたが、ものすごいスピードですね。コーナリングは立つんですね。全部体をブレーキにして。ああいうのも、もしかしたらこれから番組で取り上げるかもしれませんが、ドライバーのテクニックとして、そういうこともあるんだなと思ったところでございます。ユニフォームとか、前田陽一郎さんの話は、女房も一緒に見ていましたが、全部洋服に捉えて、やはり1着じゃなくて、2着3着持っていて。安くても良くても、こだわって買うと言っていたんですが、やはり一流の人たちは、こだわっていいものを、納得のできるものを買うと、そういうことを言っていたのかなと。洋服にしてもすべてこだわって選ぶと、そういうことを言っていたのではないかなと思ったところです。そういうことを感じながら30分、良かったなと思ったところで、私の意見としたいと思います。

山田委員長

ありがとうございました。続きまして布施さんお願いします。

布施副委員長

面白かったです。イントロダクションとしては面白いんですが、これから何を引き出してくるのかというのが、非常にテーマが多いと思います。というのは、私

自身、若いころはオートバイに狂っていて。今みたいなすごいところじゃないけれど、大型のオートバイで、カワサキとかヤマハとか、ホンダとか。それもピカピカじゃなくて、いろんな意味で自分の人生の一部になるぐらい凝っていた時があったんですが。私のオートバイ好きな友達というのは、やはりある種の思想性というか、みんな共通のものを持っていて、いつの間にかグループを作ったり、いろんなことをしていくというのが、この世界の特色ではないかと思うんですね。私のときはオートバイがそんなに出ていないときだったけれど、でもどんどん出て来て。一番興味を持ったのは、アメリカのライダー。こんなひげを生やしたおじさんたちが、ハーレー・ダビッドソンに乗っているでしょう。「あれ、なんなんだろう」って、皆思うんです、当然。それを調べてみたり、私は実際に行きましたが、やはり特殊な人たちになっていて、通常の社会生活を営む人たちから離れたところに、自分たちのグループを作って生活するという、そういう一つの糧というか、シンボルとしてのオートバイで、オートバイがなくなっちゃうと、彼らは存在意義がなくなっちゃうわけ。日本ではそこまではいかなかったけれど、でもやはりグループでオートバイに乗っている人は、どっちかというとそうですよね。オートバイに乗るということは、ただ乗っているだけじゃなくて、誰でも乗れるわけですから、そうじゃなくてオートバイを広い道、狭い道、乗りながらツーリングするなんていうのは、ふと自分の頭の中で、自分の人生と一致したという、こういうある種の満足感が、オートバイに乗るということ意味なんです。乗ったことがあれば絶対、そういうのはすぐわかるんですけど、そういうのと離れられなくなっちゃって。私は、やばいなど。そういうことは。周りはそういう人ばかりで。多様な人生があるのに、オートバイに狂ったような人生を送ってしまうのはやばいなどと思って、それでだんだん離れて、ついにはオートバイに乗ることも拒否して、違う道を行きましたが、もしも、そう

いう明確な意思が働かなければ、今でも我が家の裏にオートバイの小さい車庫を作って、そこでバイクを磨いたり、友達とツーリングしたりという人生になったと思います。昔の奴を訪ねてみると、皆そうだから。その辺が、どうなってそうなるのか。オートバイってというのは、ただ乗るだけじゃなくて、いろんな意味を持っている。なんか深いところで分析をする必要があるのではないかな。ひょっとすると、現代における社会の構造みたいなものにも関わってくるということであるかもしれない。私はどちらかという拒否したから。オートバイを見ていると「いいな」と思うけれど、「お前は、こういう素晴らしい人生から脱落した人間で」と、言われているような感じがしたから。だから、結構複雑で、オートバイに乗るっていうことは、ただエンジンをふかして乗るっていうだけじゃなくて、もっと複雑なもの、人間の深層心理的なところで、共通したものが出てくるんじゃないかな、という感じはあるんです。乗っている人を見ると、同じような感じの人間が乗っているじゃない。全然違うよ。ここにいるような人はほとんど乗っていない。彼らは言葉もいらないわけで、ビヤーンとやってしまえば、すべてわかってオーケーだから。そういうところを少し追究すると、結構面白いことも。あまりやりすぎるとマニアックになって面白くないけど、もう一步踏み込むと、面白い番組になるんじゃないかという感じがしました。だから、最後にまとめると、結構オートバイに乗るといのは、その個々の人間の、あるいは人間の集団の哲学的な問題でもある。すごく。スポーツカーとは全然違う。スポーツカーに乗っている連中とも付き合っていたけれど、そういうのと、オートバイに狂っている人とでは、まるで思想性、頭の構造が違います。そこも含めて、意味があるんじゃないかなというふうに私は思って、また昔の私を思い出して、そういう時代もあったんだな。俺も乗ったよな。もっと古いタイプのオートバイで、一回転んじゃうと起こすことができないんだよね。そ

れで足を折りましたけど。上手に転ぶといいけど。私も凝りました。ただ個人的な感想で言えば、私の青春時代を、もう一回思い起こさせてくれたから、それだけでも番組はよかったです。

山田委員長

はい、ありがとうございました。布施さんは青春時代を思い出し、私は、このオートバイの番組ということで、「ちょっと苦手な分野の一つかな」というイメージを持っていましたが。ただ、拝見させていただくと、イントロのところはすごく長く時間を取っていて、自然の中を走っていく。しゃれた感じで、何か環境ビデオを見ているような、そんなイメージを持ちました。それで今回ゲストの前田陽一郎さん。オートバイの知識もあってだいぶ乗りこなしてきたという、そういう体験者であって。しかも『LEON』という男性ファッション誌の編集長ということで。ファッションについての自分の考え方、そして人生哲学を聞いてみて、内容的にはそれほど耳新しいことではないんですが、ただこの方が非常に話が上手ですので、すごく説得力を持って視聴者に訴えたんじゃないかなと思います。「男は所詮アホだから」。その通りだと思います。そういうところをさりげなく言って、非常に30分の中でいろいろなことを知り得、感じた番組でした。ただ、ちょっと気になったのは、林さんもお話していましたが、武田さんのところの音声聞き取りづらかったです。それから、武田さんという方がどういう人物であるかどうかということも、入れておいた方が良かったかなと。その辺は質問の一つとして、後で教えていただければ。それで Ride と Life。つまりオートバイと、相手のゲストの生活、哲学とか。今回は非常にバランスが取れていて、森本ケンタさんもいろいろ話を引き出していたんですが、これからそういうことが話せるラインナップのようなものが、既にあるのかどうか。先ほど伊藤さんもお話されていましたが、そのゲストと森本さんがうまくかみ合って、Ride 以外の Life の方をうまく引き出して話せるかということだと思います。この

趣味がありまして。こいつ、バイク乗っているんですよ」と。ミュージシャンにとってもバイクは致命的だという話から、「実は、うちバイク番組あるんで、バイク番組のMC やらない？」といったところでうまく話がまとまったというのが、正直なところですよ。彼は広島で絶大なる女性のファンが多いということなので、番組趣旨にもなりますが、グレーゾーンをなんとか取り込みたい。松元もそういう風に話すと思うんですが、オートバイを身近にもっと感じてもらいたいというところで、できれば女性の方にもたとえば「自分の彼にも乗ってもらいたいな」とか、乗りはしないけれども、バイクを見たときに「あっ」と思ってもらいたい。あと、その方の人生観を見てほしい。なかなか難しいんですけど、女性の視聴者も増やしていきたい、というのもありまして、女性の絶大なる人気を誇る森本ケンタという起用ということも、その一つの要因ではあります。彼が要因で女性の視聴者が増えていくということも実際のところですので。最初は森本君を見たいがために「Ride & Life」を見ていただき、結果、オートバイを若干身近に感じていただく。そのような仕掛けというか、そういうことを僕らも思いながら、森本ケンタ君の起用をさせていただきました。これから多分まだリリースが決定していませんが、間もなくテレビとかも騒がせてくれるんじゃないかなと思っております。

山田委員長 ありがとうございました。

松元プロデューサー まず、今回武田さんにお聞きした、自慢のオートバイを紹介するコーナーで、実はこの回からやっとスタートできました。先生方から質問のありました声ですが、ディレクターと撮影をしに行っていて、マイクも2本ぐらい持って行きましたが、都内の住まわれているところで撮影をしたんですが、そこは周りの音が結構大きくて、なかなかそこで聞きづらかった。今週の分の2回目もあるんですが、そこはより声の録れるマイクを持って行ってやっています。3

回目も今度行きますが、その時は中にもうマイクを仕込んでしまおうというよう
な対策を取らせていただきました。実際、森本ケンタ君の収録とは違う手法
で録ってしまったために、ちょっと聞きづらかったなということは反省点として、
2回目3回目と、そこは少しずつ改良を、今やっているところです。また、
「Ride Music」という、最初の、女性の方が道を走るシーンですが、基本毎回
違う女性の方に来ていただいて、自分の人生の中で走って大好きなコース
を撮影していくと。県内の湘南であるとか、箱根だとか、今回は秦野から清川
に行く道なんですけど、毎回いろいろな女性の方に出ていただいて、基本素
人さんです。画角に関して、もう少しポジションを上げてもいいかなということ
で、伊藤先生から言われたような感じで、今そこを少しずつ目線と、あと風景
が一番きれいに撮れるところで、さらにバージョンを上げていきたいなと進め
ています。また、自慢のコーナーの武田さんは、代理店広告会社にもともと
いらっしゃって、今はまた違うところにいらっしゃるんですが、そういったところ
で身近で。実はそういうオートバイ好きな人がいるよというところで、最初にお
声掛けさせていただきました。企業名は出さない方がいいのかなというところ
で、そのあたりは今に入れていませんが、もう少し紹介の部分があってもいい
のかなと思いますので、何かしらの方向でフォローを入れることも考えていき
たいと思います。後は、茂木の話も出たんですが、実は19日の日に、「ツイ
ンリンクもてぎ」というサーキットで撮影を予定しています。これは今後のキャ
スティングにも関わってくるんですが、茂木でキャンプサイトがありまして、レ
ース場なんですけど、アウトドアができる施設がありまして、そこでブラジルをオ
ートバイで旅をしたという音楽ディレクターの方で、今はオートバイの旅の雑
誌のライティングをしたりとか、ブラジル音楽を広げるための活動をされてい
る横浜在住の方に、「アウトドアライフとオートバイ」、「旅とオートバイ」。彼の

人生観というのも、オートバイに乗りブラジルを旅したことで、いろいろと変わってきたというあたりを、茂木で撮影しています。それからこれも横浜に住んでいらっしやった、今日本人で唯一、F1 という車のレースを全戦撮っているカメラマンの方がいらっしやいまして、日本のモータースポーツ界の第一人者の方に、サーキット場で、いろんなカメラを通したオートバイと彼の人生観を語っていただくということを、今後考えています。あと今後は、今調整していますのは、ミュージシャン・ミュージシャン。今、森本ケンタ君と同じミュージシャンになってしまいますが、藤井フミヤさん。そこで音楽とオートバイであるとか、あと八ヶ岳に工房を持っている方で、もともとはその方もミュージシャンなんですけど、オートバイのカスタマイズ、合法的な改造をやっている方で、今日本で一番のカスタムをするという方がいらっしやいます。家族で八ヶ岳に移り住み、そこでオートバイを中心にした生活を営んでいます。子供さんもオフロード、荒地でのオートバイをやっています。家族で都内から移住して生活されているんですが、そういった方をゲストに招いてトークをしていただいたりとか、そういう方々を今案件上、リサーチをしている感じです。

山田委員長 はい。松元さんから今、丁寧に説明していただきましたが、他に何か聞いてみたいことがございましたら。よろしゅうございますか。松元さん、どうもありがとうございました。それでは、続きまして3番目、その他報告事項に移りたいと思います。まず視聴者対応の方からお願いいたします。

玉村編成部長 まず視聴者対応についてお手元の資料をご覧ください。4月15日から5月13日までに頂戴しましたメールが約6,000件、お電話は300件です。今ご覧いただきました「Ride & Life」についても、ご意見を頂戴しています。37歳の女性ということですからけれども、こういった見方もおありなのかなというふうに思います。それから、新しく始まりました昼のワイド番組、夜の生放送などに、そ

それぞれこういった意見を頂戴しています。「クルマでいこう!」「Spirit ベルマーレTV」それからご覧いただきました「あっぱれ! KANAGAWA 大行進」。普段ご覧にならないかもしれませんが、洋楽のビデオをご覧いただく番組に関する、10代の女性からの意見もごさいます。それぞれの番組の件数は、このグラフをご覧ください。以上が視聴者対応です。

山田委員長 ありがとうございます。事務局から視聴者対応についての説明がございましたが、これについて何かご意見ご質問等ごさいますか。よろしいですか。ないようでしたら、前回の番組審議会の議事報告に移りたいと思います。

議 事 報 告

山田委員長 ありがとうございます。本日の議題はこれですべて終了いたしました。何か言い忘れたこと、言い足りないことがございましたら。事務局の方から連絡事項をお願いします。

玉村編成部長 次回のご案内ですが、こちらに書いてございますように、6月21日火曜日午後2時からこちらの会議室で行います。よろしくお願いいいたします。併せまして、視聴合評につきましては、4月に始まりましたお昼の情報番組「猫のひたいほどワイド」をご覧いただきたいと思います。ここには希望日、「この日を見てください」と書いてございませませんが、先のことになりますので、今プロデューサーと相談をしています。ご案内書面をお送りする際に、この日、あるいはこの週というふう指定をさせていただきたいと思しますので、よろしくお願いいいたします。次の次は7月になります。例年7月は懇親会をやらせていただいておりますので、ちょっと早いですが、7月の19日の日取りでお願いいたしたく存じます。7月の時間は16時からをお願いします。

押川取締役 7月でございませけれども、先ほど冒頭山田委員長から白石委員の旭日双光章受勲のお話がありましたが、その席でお祝いを兼ねた形でさせていただ

ければと思いますので、皆さん全員のご出席を賜りたいと思います。

山田委員長

ではスピーチは、それまでちょっと待っていただきましょうか。それとも一言。

あまり長くしゃべるとその日に。では白石さん、一言だけお願いします。

白石委員

実は、明日皇居に行つてまいります。従いまして、どういうことなのかを含めて、感じたことをその時にお話ししたいと思います。本当にありがとうございました。

山田委員長

では早いですがけれども、他にないようでしたら、今日はこれにて閉会とさせていただきます。ありがとうございました。